

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および2月7日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は1981年に開設され、その後リハビリテーション医療に注力すべく、リハビリテーションセンターを開設している。回復期リハビリテーション病棟をいち早く開設し、地域のリハビリテーション医療の充実に貢献してきた。とくに急性期病院との連携において、脳卒中地域連携パスの運用を全国に先駆けて開始し、県内の連携ネットワーク構築に中心的な役割を果たしてきた。

2016年の熊本地震の際には、避難所等に全国から支援に訪れたリハビリテーション関連職種の受け入れの窓口として、多大な貢献を行った。その後は前方・後方連携をさらに強化し、病期に応じたシームレスなリハビリテーション・ケアの提供につながっている。2017年には全病床数を395床にダウンサイズ化しつつ、回復期リハビリテーション病棟は131床に増床し、連携パスを通じた脳卒中リハビリテーション、院内の手術例を中心とした運動器リハビリテーションを特色として、充実した専門職配置によるチーム医療を展開している。熊本県の地域包括ケアシステム構築のキーとなる病院として、今後のさらなる発展が期待できる。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院の理念・基本方針を踏まえて、回復期リハビリテーション病棟でも理念・基本方針が制定されている。内容は定期的に見直されており、職員や利用者に対して適切に周知されている。365日充実したリハビリテーション・ケアをチームで提供するため、各専門職とも基準以上に配置されており、人員体制は高く評価できる。病棟運営に関しては、毎週開催される会議で協議され、3病棟で整合性を保ちながら議論する仕組みがあり、意思決定や職員への周知も適切に行われている。

安全確保に対しては、医療安全管理委員会の下に医療安全推進部会が設置され、組織的に取り組んでいる。急変時対応に関しては、職員全員がBLS研修を受講し、多職種参加型のシミュレーションも実施されている。療養環境については、ベッドサイドにおける安全な環境が多職種で設定され、防犯体制、離院防止、トイレ・洗面所・浴室構造の安全性への配慮も適切である。

リハビリテーションに関連する臨床指標に関しては、体系的な収集・分析の仕組みがあり、業務改善にも活用されている。教育研修委員会を中心に包括的実践的な教育研修がなされており、各職種の資格取得も計画的に行われている。

急性期と回復期の地域連携パスは全国に先がけて導入され、在宅復帰後のリハビリテーション・ケア継続に向けて、退院1か月後の電話調査も開始している。2016年の熊本地震時には、避難所等のリハビリテーション支援と全国からの支援者の窓口として、地域に貢献したことは高く評価できる。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

リハビリテーション科専門医9名を含む医師10名が病棟に関わり、うち1病棟が専従医1名、2病棟が専従医2名であり、疾患管理、チーム医療の実践、患者・家族に対する説明や指導を適切に行っている。院内教育や学術活動にも注力している点は高く評価できる。看護・介護職の専門的な計画立案、実践も適切に行われており、認定資格取得や院内外の研究発表にも組織的に取り組んでいる。

各療法士の専門的役割は明確に規定されており、ADLや高次脳機能に対する評価や介入に関する療法士間の分担や連携も適切に行われている。質向上に向けたデータ分析、院内教育や院内外の発表、専門資格取得などへの組織的な取り組みは高く評価できる。

社会福祉士は各病棟に専従配置され、病棟に常駐しながら、リハビリテーション・ケアの進捗と患者・家族の生活状況や希望を踏まえた支援を適切に行っている。管理栄養士は、各病棟に専任配置され、入院初期からの体系的な栄養評価や進捗に伴う栄養管理や食形態の見直しを適切に行っている。地域の嚥下調整食の標準化や対外的にも利用できるマニュアル作成への取り組みは高く評価できる。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院当日の合同評価に基づき、医師を中心とした多職種で入院診療計画やリハビリテーション実施計画を作成し、患者・家族に説明したうえで同意を得ている。担当者ミーティングでのすり合わせを経て、月1回開催されるケースカンファレンスで、ICFに基づく全体像の把握・課題整理・計画立案が行われ、リハビリテーション総合実施計画書が完成し、脳卒中の場合は院内パスの適応が開始されている。薬剤師は持参薬を評価し、代替薬、剤型、服薬方法の提案やポリファーマシー対策の必要性などを医師に提案している。歯科衛生士は口腔ケアや歯科治療の必要性を適切に評価している。

1日平均6単位以上の疾患別リハビリテーションが週末、祝日も含めて提供され、個別リハビリテーション以外の活動を高める工夫も適切である。多職種間の情報共有は毎朝のADLカンファレンス、ケースカンファレンス記録、診療記録などでタイムリーに行われている。患者固有の問題に対しては、摂食嚥下・栄養・服薬・転倒などの各種カンファレンスなどが適宜開催され、適切な対応が行われている。

自宅復帰に向けて、入院早期から退院支援計画の策定、家屋調査や訪問指導、外出、外泊練習、介護力の評価や支援などが計画的に行われている。今後、退院後の調査を充実し、病棟業務のさらなるブラッシュアップに繋げることを期待したい。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	II
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	I
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	II
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	II
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	II
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	II
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	II
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	II
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	II
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	I
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	II
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	I

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	II
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	I
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	II
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	I
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	II
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	II

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅰ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅰ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	II
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	II
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	II
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	II
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	II
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	II
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	II
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	II